

# 統計トピックス ～勤労感謝の日に就業率を想う～

## ◆就業率

少子高齢化が進んでいる現代、労働資源の有効活用が大きな課題の一つとなっています。

従来、労働資源の有効活用を表す指標として、「失業率」が主に用いられてきました。

完全失業率は労働力人口に占める完全失業者の割合で算出されます。

失業者が就職をすることにより、完全失業率は低下しますが、同時に雇用機会の減少を見て職探しを諦め、失業者が非労働力人口へ移行することによっても、完全失業率は低下します。非労働力人口には、学生や専業主婦、退職した高齢者等を含みますが、ニートも含まれます。失業者が就労意欲を失い、非労働力人口が増えることによって完全失業率が低下したとしても、少子高齢化社会においては望ましいことではありません。

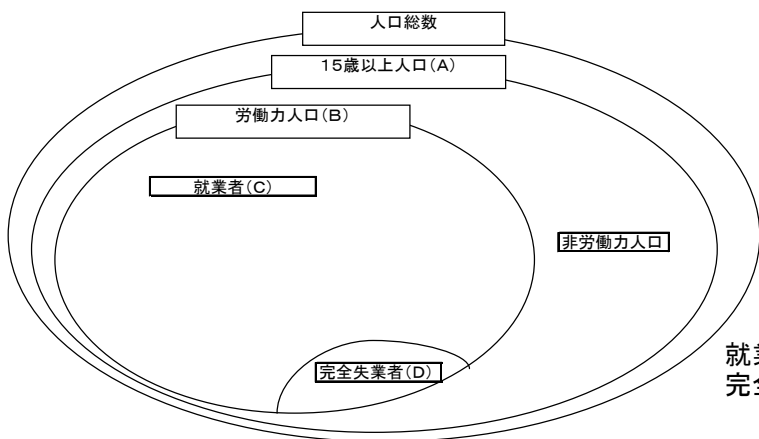
こういった状況を的確に把握するために、最近では失業率と負の相関関係を持つ「就業率」指標が注目されるようになってきています。就業率は、15歳以上人口に占める就業者の割合で算出されます。

就業率が高ければ、それだけ、限られた労働資源が有効活用されており、同時に、国や社会に頼らず自立している人が多いことを示します。

本県における就業率の状況は、下のグラフに示すとおりであり、平成12年国勢調査によると、就業率は全国最下位となっております。平成17年国勢調査による就業に関する結果(平成19年1月公表予定)では上昇していることを期待します。

11月23日勤労感謝の日は、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう」日です。

就業率が上昇し、豊かな社会になってほしいものです。



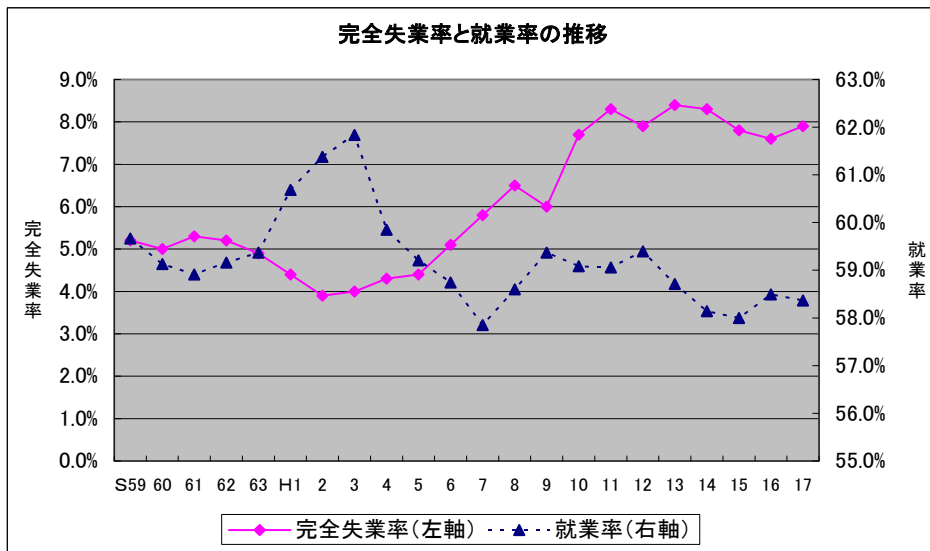
※  
労働力人口: 15歳以上人口のうち、収入を得ることを目的とする仕事をしている人(就業者)と、仕事はしていないけれども仕事を探している人(失業者)の総体を指し、経済活動人口ともいう。

非労働力人口: 15歳以上人口のうち、労働力人口以外の学生、専業主婦、高齢者、病弱者など働く意欲や能力を持たない者を指す。

「統計小辞典」(財)日本統計協会より

$$\text{就業率} = (C) / (A) \times 100$$

$$\text{完全失業率} = (D) / (B) \times 100$$



※沖縄県「労働力調査」より加工掲載

## 就業率 都道府県別ランキング

都道府県	順位	就業率(%)	都道府県	順位	就業率(%)
長野県	1	63.9	福岡県	45	54.5
静岡県	2	63.0	奈良県	46	53.4
福井県	3	62.9	沖縄県	47	53.2
全国平均	—	58.2			

平成17年国勢調査第二次基本集計は平成19年1月に公表予定

※平成12年国勢調査第二次基本集計より加工掲載